協議資料1

アーツ前橋　平成30年度　事業企画一覧表及び事業評価調書

	ページ
Ⅰ アーツ前橋　事業企画一覧表【展覧会】	2
事業評価調書	
1 Art Meets 05　菊池敏正／馬場恵	4
2 横堀角次郎と仲間たち　草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで	6
3 時をつなぐ　アーツ前橋所蔵作品から	9
4 横浜美術館コレクション　昭和の肖像　写真でたどる「昭和」の人と歴史	11
5 岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの	14
6 近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路	資料1参照
7 闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s—2010s	資料1参照
Ⅱ アーツ前橋　事業企画一覧表【地域AP・文化支援】	17
事業評価調書	
1 滞在制作事業(海外)	18
2 滞在制作事業(群馬県ゆかり)	20
3 文化支援事業　前橋まちなかアーツ助成	22
4 つまずく石の縁　地域に生まれるアートの現場	24
Ⅲ アーツ前橋　事業企画一覧表【ラーニング】	27
事業評価調書	
1 学校連携事業(スクールプログラム)	28
2 あーつひろば	30
3 アーツナビゲーター研修	32
4 表現の森継続事業	34

1.6.17　第23回運営評議会

I

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【展覧会】1

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。		
細事業別目標【展覧会】	中核的なパブリックアート事業となる岡本太郎作品を広く知ってもらう展覧会と、実績ある美術館との連携事業によって発信と専門性を高める。		
展覧会名称	Art Meets 05 菊池敏正／馬場恵	横堀角次郎と仲間たち 草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで	時をつなぐ アーツ前橋所蔵作品から
会期・日数	2018/3/17－2018/5/19 /51	2018/3/17－2018/5/29 /51	2018/6/14－2018/9/18 /84
場所	ギャラリー1	地下ギャラリー	ギャラリー1
学芸担当者	吉田	辻	辻
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等			
最終修正日	2017/12/9	2017/12/11	2018/5/30
〔目的〕 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	古典技法による木彫の菊池敏正と旧来からある銅版画技法を軸に、ミクストメディアで制作する馬場恵による、それぞれの技巧の面白さと、親しみやすい展覧会をめざす。 ターゲット:若者、美術になじみのない方 1. 新たな観客の獲得 2. 現役作家による、自然観察・描写の多様な見方を紹介する。 3.二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介。	横堀角次郎の画業を振り返り、横堀の画家としての位置を探る。 ターゲット:県内、近代美術愛好者 1.地域作家の紹介 2.所蔵品の文化的価値の提示、再評価 3.岸田劉生など著名画家を紹介	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。 ターゲット: 近隣住民、市外の美術愛好者 1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着
〔①投入〕成立予算	1,863千円	13,360千円	628千円
〔②内容・活動〕 事業の概要	数理模型をモチーフに、古典技法を用いて彫刻作品をつくる菊池敏正と、植物の生態をモチーフに、植物標本の作品を版画で制作する馬場恵を紹介する。	大胡町出身の横堀角次郎の画業を振り返り、ともに歩んだ仲間たちの作品を加える	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	1.親子向けのワークショップを計画する。	1.ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2.広報前橋で横堀作品を探していることを告知(7/15号)	1.新収蔵作品の公開 2.作家研究に基づいた展示構成。 3.鑑賞補助資料の作成(キャプション、配布物)
〔数値目標〕 入場・参加者数	5,500人 (うち4/1以降 4,400人)	4, 000人 (うち4/1以降 3,500人)	6, 000人
〔人数及び達成率〕	4,731人 86%	3,550人 89%	5,115人 85%
【事後記入】 〔③結果、④成果〕 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調書からトピックを転記)	・新たな観覧者層に美術の楽しみ方と、次回への期待を持たせることにつながった可能性がある。 ・ワークショップの参加者も多く、身近な対象物の意外な見え方は、興味を引くと思われる。 ・二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介した。	・アンケートによると市内52%、県内27%で、市内が半数を超えたのは初めて。 ・草土社時代の初期作品を紹介したことで、地元では「赤城山の作家」として知られる横堀の長い画業とその変遷を知ってもらう機会をつくれた。 ・草土社時代では岸田劉生や椿貞雄とともに並べて比較することで、それぞれの個性や影響関係を伝えることができた。	・前橋空襲をテーマにした小泉明郎作品が、夏休み期間中の展示であったため反響が大きかった。 ・対話による作品鑑賞「おしゃべりアートデイズ」を30分と短くして、無料スペースで開催することで、気軽に作品を鑑賞してもらえるようにした。のべ61名参加した。
特記事項			

様式:H30.11

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【展覧会】2

開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。

中核的なパブリックアート事業となる岡本太郎作品を広く知ってもらう展覧会と、実績ある美術館との連携事業によって発信と専門性を高める。

横浜美術館コレクション 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの	近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路	闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s—2010s
2018/7/6－2017/9/3 /52	2018/10/5－2019/1/14 /81	2019/2/2－2019/3/24 /44	2019/2/2－2019/3/24 /44
地下ギャラリー	全ギャラリー	ギャラリー1	地下ギャラリー
今井	忠、若山	若山	五十嵐
巡回展	・前橋岡本太郎展実行委員会 ・自治総（シンポジウム助成） ・太陽の会		美術館連絡協議会、福岡アジア美術館との共同開催
2018/7/16	2018/7/16	2019/3/20	2018/11/24
他館（横浜美術館）との連携を軸に他館のコレクションを利用した新しい形の企画展を目指す。横浜美術館の展示ノウハウの取得や人的交流を進める。地域に存在する中高年層の写真ファンをターゲットに集客を努め、当館の収蔵品には少ない、写真という芸術を楽しむ機会を創出する。	広瀬川畔への《太陽の鐘》の移設に伴い、岡本太郎を紹介することで中心市街地地域全体の活性化につなげるとともに、新しい切り口で太郎を紹介することにより全国の岡本太郎ファンにアーツ前橋の活動を周知する。	前橋市が収蔵する近藤嘉男の作品を一堂に会した特集形式のコレクション展。近藤が遺した1971年の欧州外遊時の日記を補助線として、郷土の画家の画業を振り返る。絵を描く喜びと生活の苦悩が半ばする「人間」としての近藤嘉男を紹介する。	福岡アジア美術館との連携をもとに、版画表現を通したアジアの交流史を見ることで、商品化・スペクタクル化する今日のアジア美術とは異なる、アジア美術の潜在力を探求する。
ターゲット：県内、美術（特に写真）愛好家 1.新たな観客の獲得 2.美術館機能の高さのアピール 3.収蔵作品への新たな視点の獲得 4.長期的視点の美術館連携の可能性	ターゲット：近隣住民、全国の岡本太郎ファン全般 1. 岡本太郎ファンを中心とした新たな観客の獲得 2. 官民学が行っている地域活性化へ向けた活動を広く周知する。 3. 誰にでも開けた美術館としての活動を周知する。	ターゲット：近隣住民、50代～60代の中高年層 ・郷土の戦後文化への関心を高める ・芸術作品を通して多様な生き方を知る（生涯学習） ・コレクションの活用方法の多様化	ターゲット：関東近郊、近隣の外国人 アジア美術と版画の紹介により新たな客層の獲得
8，156千円	11,277千円 （外シンポジウム3,000千円） （外協賛金）	628千円	10，845千円
横浜美術館が開催した「昭和の肖像—写真でたどる昭和の人と歴史」展をベースに、アーツ前橋のギャラリーに合わせた展示を共同企画する。	『今日の芸術』から読み取れる岡本の思想を検証するとともに、活動の軌跡をさまざまな作品や資料によって紹介する。	近藤の絵画作品だけでなく、彼が遺したスクラップブックや写真も合わせて展示する。さまざまなビジュアルによって、絵画作品が多角的に理解できる鑑賞環境を作る。	1930年代から近年までに制作された東南アジアの社会運動と結びついた木版画を紹介し、新しいアジア近現代美術史の視点を提供。
1.他館との学芸レベルでの情報交換と協力関係の構築 国内コレクションの豊かさを紹介 .来館者層の拡大	1.岡本太郎研究者・春原史寛氏を監修者に迎えて展示を構成。 2. 関係各所と連携し、《太陽の鐘》移設について紹介。 3.文化人を迎え岡本太郎を知るシンポジウムを実施	1.ひとりのアーティストに注目した特集展示という新しい形式を採用する 2.新たな広報ツールをつくる	1.巡回の展覧会に加え、アーツ前橋独自の企画展示を追加する 2.地域の外国人コミュニティーの呼び込み 3.先行する他館の情報を利用し、告知を充実させる
5，000人	8，100人 （外 シンポジウム1,000人）	3，500人	3，000人
3,003人 60%	22,863人 282%	4,608人 132%	3500人 117%
・横浜美術館の基準が50±2%であったため、露点温度／乾球温度を調整し、温湿度管理を徹底した。照度に関しても作品保護に努めた。 ・石内都氏のような収蔵作家を「戦争」「女性」というコンテクストだけでなく、さらに大きな文脈で紹介できるように写真史を俯瞰して、今後の収蔵作品を考えていく必要性を感じることができた。 ・今回、横浜美術館と構築された信頼関係を元に、今後の企画展の共同制作など学芸員同士の交流を通じた企画も展開できるだろう。	・初来館の近隣住民が多く、首都圏を中心に県外からの来館者も多くみられた（来館者の61%がアーツ前橋に初めて利用している。市内・県内在住の来館者が全体の81%） ・岡本太郎というコンテンツを通して、これまでつながりの無かった諸機関や研究者との連携・交流が生まれた。太陽の会からの協賛は、企業協賛の実績として今後の事業資金調達の検討に資する事例となった。 ・美術館をあまり利用しない市民の来館が多く、解説の難易度、事故防止策などの必要性について考えさせられた。		

様式：H30.11

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	Art Meets 05　菊池敏正／馬場恵		
会期	平成30年3月17日（金）～平成30年5月29日（火）	開館日数	64 日間
会場（ギャラリー）	アーツ前橋　ギャラリー1	実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　－ 割引　－	出品点数	28 点
担当者	学芸：吉田　成志　事務：新保　正夫		
目的・目標（総括表）	古典技法による木彫の菊池敏正と旧来からある銅版画技法を軸に、ミクストメディアで制作する馬場恵による、それぞれの技巧の面白さと、親しみやすい展覧会をめざす。		
キーワード	技巧の面白さ、古典技法、彫刻作品、植物の生態、植物標本		
他団体との連携（共催、協力等）	東京大学総合研究博物館、阿佐ヶ谷美術専門学校		
参加作家	菊池敏正、馬場恵		
関連イベント	日本彫刻の古典技法を体験するワークショップ　4月29日（日） 架空の花をつくるワークショップ　5月6日（日） こどもアート探検　5月12日（土）		

①インプット（投入）…用いた資源　②プロセス（活動）…戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）…実施内容、実績
④アウトカム（成果）…どういう反応が得られたか　⑤インパクト…波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（A3）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	小冊子
	部	30,000部	部	0部	0部	3,000部

収入／支出	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入（Aの一部）一般	割引	合計
予算	－	1,863,000 円	－	339 円	－	－	－
決算見込	－	1,537,780 円	－	325 円			
差額	－	-325,220 円	－	-14 円			
予算／決算	－	82.5%	－	96.0%			
会期一日あたり（決算）	－	24,028 円	－	－	－	－	－

旅費の減
居住地の近い作家を選出
（東京・大阪→東京・鴻巣）
横堀展との共同発注による減
会場、輸送

②内容・活動

［②内容］事業の概要	事業の概要（転記）	数理模型をモチーフに、古典技法を用いて彫刻作品をつくる菊池敏正と、植物の生態をモチーフに、植物標本の作品を版画で制作する馬場恵を紹介する。
［②活動］主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.親子向けのワークショップを計画する。
	広報実績（新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件）	インターネット関係に掲載実績があった。 美術手帳Web：㈱美術出版社　　東京アートビート：their respective owner(s) ぐんラボ：朝日印刷工業（株）　　中之条ビエンナーレ：中之条ビエンナーレ実行委員会 インターネットミュージアム：インターネットミュージアム ネットTAM：トヨタ／企業メセナ協議会
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	日本彫刻の古典技法を体験するワークショップ　4月29日（日） 参加者11名（定員15名）　大人が多かった。 架空の花をつくるワークショップ　5月6日（日） 参加者28名（定員15名）　親子連れが多く、試みに合致した。

③結果

入場者数（参考数値） 上段：人数（人） 下段：割合（%） ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
											4,731	74
有料観覧者率　0.0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	5,500 人	4,731 人	86.0 %	目標：5,500人（うち4/1以降　4,400人）
	展覧会満足度	80 %	71.0 %	-9.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	Art Meets 05　菊池敏正／馬場恵	
③結果	進捗管理 [スケジュール観]	(A)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	若者、美術になじみのない方
		成果	「1F　馬場　博物図のようであり楽しかった」「Art meetsがとても良かった。これからも様々な作品も紹介してほしいです。」というコメントから、新たな観覧者層に美術の楽しみ方と、次回への期待を持たせることにつながった可能性がある。
		ねらい1(転記)	1. 現役作家による、自然観察・描写の多様な見方を紹介する。
		成果	「植物が疑態するのが興味深かったです。」というコメントがあり、プロの作家による描写の妙が伝わったたケースと考える。ワークショップの参加者も多く、身近な対象物の意外な見え方は、興味を引くものと理解した。
		ねらい2(転記)	2.二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介。
		成果	「菊池さんのシャープさ馬場さんの花のかんじがうまくコラボレーションなっていて美しい」→二人を一堂に紹介する意味が垣間見れたと思う。「地下の展示とかけはなれている」→関連性を説明できれば面白いと感じた。
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒*　馬場恵さんは群馬フラワーパークでの展示を予定。菊池さんは、ギャラリー碧(足利市)での展示がおこなわれた。 *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒*馬場さんが近くにお住まい(鴻巣市)なので、知人を連れてきていただいたり、こまめに顔を出していただいた。 *4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入* *5. 地域資源の活用という点での効果⇒*　馬場さんは中之条ビエンナーレで制作した作品を展示し、地域芸術祭の成果を美術館の展示につなげることができた。 *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*	
自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　(2)良い　3.普通　4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	課題・改善点	チラシが両面版であり、2名を紹介していることから、イベントが時系列で通覧できない、地図やアクセス情報が片面だけに載ってしまうという指摘を受けた。 作家の決定が早かったため、スケジューリングに余裕があった(事務)	
	引継ぎ事項 (特記事項)	小冊子はAM04より完成が早く、3月末から配布ができた。完成時期を遵守したい。	
	コメント・意見	館長 副館長	ギャラリー1の空間を効果的に使う展示になった。自然を鑑賞する眼が、どのように創作へとつながるのか、鑑賞者の関心を横堀と比較することができたのもよかったのではないか。
		運営 評議会	・特になし(30/7/23)

最終更新日:H30.7.21

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名	横堀角次郎と仲間たち　草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで			
	会期	平成30年3月17日（金）～平成30年5月29日（火）		開館日数	64 日間
	会場（ギャラリー）	アーツ前橋　全ギャラリー		実施方式	01自主企画・単独方式
	観覧料	一般　500 円		出品点数	180点
		割引　300 円			
	担当者	学芸：辻　瑞生　事務：高山　あずさ			
	目的・目標（総括表）	横堀角次郎の画業を振り返り、横堀の画家としての位置を探る。			
	キーワード	生誕120年、没後40年の本格的な回顧展、前橋ゆかり作家、近代洋画			
	他団体との連携（共催、協力等）	自画像のヘッドマークを掲げ、赤城山側の車内ポスターを全て統一した特別電車を運行（上毛電気鉄道）			
		展示室内での弦楽アンサンブル演奏会の実施（前橋西ロータリークラブ）			
		高齢者を対象とした対話による鑑賞プログラムの実施（一般社団法人アーツアライブ）			
		地元ギャラリーが横堀角次郎展に関連して「鈴木強平と友人たち」を自主企画した（百日紅ギャラリー			
	参加作家	横堀角次郎	岸田劉生	木村荘八	全22作家
	関連イベント	3/4,5　ワークショップ「風景を描く」講師：衣真一郎			
		3/21　アートリップインアーツ前橋			
		4/15　講演会「横堀角次郎の魅力」講師：染谷滋（ゲストキュレーター）			
		5/19　講演会「横堀と三岸と鳥海と」講師：原田光（美術史家）			
		5/20　すてきな子どもたちによる弦楽アンサンブル演奏会			
		3/31、4/16、27　学芸員によるギャラリーツアー			
		5/10～15　おしゃべりアートデイズ			

①インプット（投入）・・用いた資源　②プロセス（活動）・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録	
		1,500 部	45,000 部	0 部	0 部	0 部	1,200 部	
	収入／支出	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入（Aの一部）		
						一般	割引	合計
	予算	622,000 円	12,995,610 円	4.8%	3,249 円	-	-	622,000 円
	決算見込	626,700 円	12,786,410 円	4.9%	3,602 円	333,000 円	293,700 円	626,700 円
	差額	4,700 円	-209,200 円	0.1%	353 円	-	-	4,700 円
	予算／決算	100.8%	98.4%	102.4%	110.9%	-	-	100.8%
	会期一日あたり（決算）	9,792 円	199,788 円	-	-	5,203 円	4,589 円	9,792 円

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	大胡町出身の横堀角次郎の画業を振り返り、ともに歩んだ仲間たちの作品を加える
	〔②活動〕主な取組（手段）の結果・メディア等広報実績・新たな試み　図録　関連イベント　助成　など	・広報戦略・新たな試み（転記）	1.ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2.広報前橋で横堀作品を探していることを告知（7/15号）
	●指標　来館者反応　モニター	広報実績〔新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件〕	4/25　日曜美術館アートシーン 5/1,2,3,4,5　アートを愉しむ　作品紹介全5回　（上毛新聞パレット） 4/3,10,17　心で描く　横堀角次郎没後40年　連載全3回　（上毛新聞文化面） 4/28　毎日新聞夕刊 5/8　作品紹介　（読売新聞夕刊ギャラリーモール） 5/20野地耕一郎「見なお史日本近代絵画　こんな画家がいた　第41回横堀角次郎」（「一枚の絵」6月号）
		新たな試みの実績	1.ゲストキュレーターを立てた 2.地下の順路をギャラリー2⇒6⇒5⇒4⇒3とし、展示壁面を増やすためにギャラリー2と6に仮設壁を立てた。 3.横堀角次郎作品と、仲間の作家でキャプションを色分けして、作者が違うこと分かりやす伝えようとしたが、色の違いに気づかない人もいた。 4.横堀角次郎の出身地が旧大胡町であるため、大胡地区の方へのアピールとして、会期中、沿線を走る上毛電気鉄道に横堀角次郎展号を走らせた。

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	横堀角次郎と仲間たち　草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで

③結果

入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	948	36	818	83	139	913	126	190	0	297	3,550	55
有料観覧者率　56.6%	27%	1%	23%	2%	4%	26%	4%	5%	0%	8%		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	4,000 人	3,550 人	88.8 %	うち4/1以降　3,500人
	展覧会満足度	80 %	81.5 %	1.5 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)

進捗管理[スケジュール観]

Ⓐ概ね円滑に進んだ

B.遅延気味であった( )

開館後まで積み残しとなった事項(　　)

④成果

〔④成果〕
期待に対する結果
・観覧者層のターゲット
・ねらい

観覧者層のターゲット	県内、近代美術愛好者
成果	アンケートによると市内52%、県内27%で、市内が半数を超えたのは初めて。年代では田中青坪展と同様に60代以上が圧倒的であったが、本展で60代より70代以上の割合が高かった。来館回数は昨年度の加藤アキラ展では6～10回の割合が多かったのに対して、本展では2～5回が多いため。
ねらい1(転記)	1.地域作家の紹介
成果	前橋市では横堀角次郎作品を油彩画32点、日本画20点の合計52を収蔵し、大胡シャンテ内の記念室で年に4回展示替えをしながら作品を紹介しているが、あまり知られていなかった。今回、草土社時代の初期作品を紹介したことで、地元では「赤城山の作家」として知られる横堀の長い画業とその変遷を知ってもらう機会をつくれた。アンケートからは、「私の家の北で冬、同じ時間に描いていた姿が眼にやきついている」というコメントなどが寄せられたのは、地域ならではである。
ねらい2(転記)	2.所蔵品の文化的価値の提示、再評価
成果	これまでの展覧会では横堀角次郎は、「岸田劉生の周辺の作家」という位置づけをされていたが、草土社から離れてからの、赤城山シリーズや三四郎池シリーズを紹介することで、伸びやかで大らかな作風を伝えることができた。 また全国の草土社周辺を収集している美術館から借用することで関係性を築くことができ、同時にアーツ前橋が横堀角次郎作品を収蔵していることを知ってもらえる機会となった。
ねらい3(転記)	3.岸田劉生など著名画家を紹介
成果	草土社時代では岸田劉生や椿貞雄とともに並べて比較することで、それぞれの個性や影響関係を伝えることができた。春陽会以降では創作の影響関係というよりは、交友関係を紹介するような展示構成となった。アンケートでは、他の作家の作品を見ることができたと好評価する部分と、他の作家の作品数が多すぎるとの指摘もあった。 三酉会と森村酉三の調査を進めるなかで、結成の経緯などで新発見があった。

⑤波及効果

個別評価

※記入日を()内に入れてください

※概ね1年経過毎に再確認して修正

<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載>

1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入

2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入

3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒　ハラサワコレクション、秋山コレクションをはじめ、県内、市内の所蔵者に作品借用や資料調査で協力いただき、良い関係性を築けた。市内のギャラリーでは、本展覧会に合せて横堀角次郎の関連企画を実施した。
展覧会開催の直前に著作権継承者と連絡がとれ、横堀角次郎と一緒に過ごしていた時期の話を聞くことができた。

4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒展覧会終了後の掲載になったが、野地耕一郎の連載「見なお史日本近代絵画　こんな画家がいた」(「一枚の絵」)で横堀を4ページにわたり紹介された。

5. 地域資源の活用という点での効果　⇒アーツ前橋や横堀角次郎記念室で所蔵している横堀角次郎作品48点を展示し、前橋市所蔵の美術作品を周知する効果があった。また会期中、横堀角次郎記念室の入室者が普段よりも多かったと聞いた。

6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒遺族から作品2点の寄贈の申し出があった

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

	事業名	横堀角次郎と仲間たち　草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで			
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	収蔵作家の個展であったために早い段階から作品調査に取り掛かれたことや、県内2名のコレクターの協力より、展示の半年以上も前から調査のための借用することができ、作品選定も効率的に進められた。 図録制作では、持ち運び重視でコンパクトなB5版にしたため、作品画像や文字の級数が小さいことなど、読みにくいとの指摘もあったが、概ね好印象だった。 広報スケジュールは適切に進行し、早めにプレスリリースが送付できたことで、NHKアートシーンで取り上げられほか、上毛新聞では文化記者による連載3回、作品紹介5回、コラムなどで紹介していただいた。 作品点数が多いことなどから、説明的になりがちなキャプションやパネルなどは少なくして、年代順、テーマ順という単純な構成にしたが、代表作をゆっくり見せる工夫や、テーマごとに変化をつけるような見せ方の工夫ができたのではないと反省している。			
引継ぎ事項（特記事項）		平面作品だけで展示構成を考える上で、ギャラリー2や6に仮設壁を立てたのは空間としては有効であったが、それによって監視員の死角ができてしまったことや、順路が分かりにくいという指摘もあった。 過去に横堀展を担当した染谷氏にゲストキュレーターを依頼したことで、年表や参考文献などは基礎資料を基に準備、調査できたことがよかった。			
コメント・意見	館長 副館長	コレクターや全国の美術館から作品を集め、ほぼはじめて活動の全容が分かる個展になったのは素晴らしい成果だった。元県立美術館の染谷滋氏から調査の引継ぎができたことも重要。新しい見方や資料の発見などにつながればさらによかったように思える。			
	運営評議会	・インスタグラムについて、今回の横堀展ではどうしたのか。→回答　(30/3/28) ・特になし(30/7/23)			

最終更新日：H30.7.18

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名	時をつなぐ　アーツ前橋所蔵作品から		
	会期	平成30年6月14日（木）～平成30年9月18日（火）	開館日数	84 日間
	会場（ギャラリー）	アーツ前橋　ギャラリー1	実施方式	01自主企画・単独方式
	観覧料	無料	出品点数	14点
	担当者	学芸：辻　瑞生　事務：新保　正夫		
	目的	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。		
	キーワード	コレクション紹介　「昭和の肖像」展への導入　現在・過去・未来		
	他団体との連携（共催、協力等）	特になし		
	参加作家	小泉明郎　石内都　南城一夫　ほか、全11名		
	関連イベント	8/20.21.23.21.24.26　おしゃべりアートデイズ 7/14,9/9　学芸員によるギャラリーツアー 8/18　こどもアート探検		

		ポスター（A3）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	1,200 部	－	－	－	－	－

		収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	収入内訳 助成金	収入内訳 他
収入／支出	予算	－	627,860 円	－	105 円	－	－	－
	決算見込	－	618,840 円	－	121 円	－	－	－
	差額	－	-9,020 円	－	－	－	－	－
	予算／決算	－	98.6%	－	115.6%	－	－	－

②内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要（転記）	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。
	〔②活動〕 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	ターゲット：近隣住民、市外の美術愛好者 1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	A3ポスターの作成 高崎地域新聞
		新たな試みの実績	2017年度新収蔵作品の多くが、過去1,2年で展示している作品が多かったために、新収蔵作品の紹介は行わなかった。かわりに、地下ギャラリーの企画展「昭和の肖像」展にあわせて、「時、時間、歴史」をテーマとして、近現代の画家が生きた時代を伝える風景、産業、生活者を描いた作品や、現代のアーティストが地域の歴史を題材とした作品を紹介した。

		一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
③結果	入場者数（参考数値） 上段：人数（人） 下段：割合（%） ※色付きは有料観覧者	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5,115	61
	有料観覧者率　－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名	時をつなぐ　アーツ前橋所蔵作品から				
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
		入場・参加者数	6,000 人	5,115 人	85.3 %	
		展覧会満足度	80 %	72.8 %	−7.2 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)
	進捗管理 [スケジュール観]	Ⓐ概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )				
④成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	近隣住民、市外の美術愛好者			
		成果	アーツ前橋および前橋市の所蔵作品の展示をのぞむ人たちが来館したかどうか、現在の統計ではわからない。			
		ねらい1(転記)	1.コレクションへの理解が深まる			
		成果	前橋空襲をテーマにした小泉明郎《捕われた声》を、夏休み期間中の展示であったため反響が大きかった。			
		ねらい2(転記)	2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会			
		成果	物故、現存の前橋ゆかりの作家、開館前後からアーツ前橋の活動にかかわってきた作家の作品を紹介することができた。			
		ねらい3(転記)	3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着			
		成果	対話による作品鑑賞「おしゃべりアートデイズ」を30分と短くして、無料スペースで開催することで、気軽に作品を鑑賞してもらえるようにした。のべ61名参加した。			
⑤波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正(記入日を()内に記載)	<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. 事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価* ⇒ 幸田千依の滞在制作の成果作品を通して、当時の関係者から地域の思い出が話される機会となった *4. 事業の実施に伴う波及効果* ⇒ 収蔵作品を繰り返し紹介することでアーツナビゲーターのスキルアップに繋がった *5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒後日記入* *6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日記入*				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	課題・改善点	本展のみを鑑賞した場合は、気軽に作品鑑賞できる一方で、作品数が少ないというコメントも寄せられた。しかし地下ギャラリー開催期間中では、地下の展覧会と比較してみていただいたり、導入としても機能したようだ。 自治会の掲示板などに掲出しやすいA3ポスターサイズを製作しているが、効果的な広報となっているのか検討が必要か。				
引継ぎ事項(特記事項)		今回は地下の展示企画に内容を寄せる方向でテーマ付けしたが、今後はその都度テーマを決めるのではなく、2,3年の計画を立てることで、計画的に収蔵作品の調査をすることができるのではないか。				
コメント・意見		館長 副館長	収蔵品のお披露目だけでなく、「おしゃべりアートツアー」や企画展との連動など、複数の事業の接点を果たす目的が果たせたのはとてもよかった。収蔵品の調査を進めるために今後の実施方法についてさらに議論をしていきたい。			
		運営 評議会	・コレクションⅠやコレクションⅡでは人は集まらないと思う。「何だろう」と思わせるのが大事だと思う。展覧会名はよく考えてもらいたい。(29/12/18) ・特になし(30/11/26)			

最終更新日:H30.11.22

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	横浜美術館コレクション　昭和の肖像　写真でたどる「昭和」の人と歴史		
会期	平成30年7月6日（金）～平成30年9月3日（月）	開館日数	52 日間
会場（ギャラリー）	アーツ前橋　地下ギャラリー	実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　500 円 割引　300 円	出品点数	335 点
担当者	学芸：今井　朋　事務：佐藤　恵司		
目的	他館（横浜美術館）との連携を軸に他館のコレクションを利用した新しい形の企画展を目指す。横浜美術館の展示ノウハウの取得や人的交流を進める。地域に存在する中高年層の写真ファンをターゲットに集客を努め、当館の収蔵品には少ない、写真という芸術を楽しむ機会を創出する。		
キーワード	昭和の歴史　写真史　横浜　肖像　他館連携		
他団体との連携（共催、協力等）	横浜美術館 前橋写真月間		
参加作家	石内都　ロバート・キャパ　土門拳　須田一政ほか		
関連イベント	7/28 倉石信乃（明治大学教授・写真史）レクチャー「戦時下の写真家たち」 8/11 石内都（本展出品作家）×小泉明郎（アーティスト）対談 7/22, 8/18 学芸員によるギャラリーツアー 8/19 ロビーライブ vol.17 ジャズ		

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	出品目録	図録
	1,500 部	73,000 部		4,000 部	4,000 部	

収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	他
予算	750,000 円	8,155,440 円	9.2%	1,631 円	750,000 円		
決算見込	433,300 円	8,126,800 円	5.3%	2,706 円	433,300 円		
差額	−316,700 円	−28,640 円	−3.9%	−	−316,700 円		
予算／決算	57.8%	99.6%	58.0%	165.9%	57.8%		

②内容・活動

〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）：横浜美術館が開催した「昭和の肖像―写真でたどる昭和の人と歴史」展をベースに、アーツ前橋のギャラリーに合わせた展示を共同企画する。
〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）：1.他館との学芸レベルでの情報交換と協力関係の構築 2.国内コレクションの豊かさを紹介 3.来館者層の拡大
	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］：7/6 写真でたどる昭和　石内都さん、荒木経惟さん、キャパ…　今日からアーツ（上毛新聞） 7/12 所蔵品貸し借り　展示に利点　貸し手　作品活用、時館PR　借り手　新しい客層を開拓（読売新聞） 7/20【上州日和】 73年目の夏（中島美江子）（朝日ぐんま） 7/29 写真で、平和の尊さ見詰め直す（東京新聞） 8/21【文化】「不完全」表現の力に　アーティスト　小泉明郎さん　写真家　石内都さん（上毛新聞） 8/17 人物、風景、戦争、復興、高度経済成長ー写真でたどる「昭和」 アーツ前橋で9月3日まで（朝日ぐんま）
	新たな試みの実績：1. 他館（横浜美術館）との連携と信頼関係構築 →企画から作品返却まで、事細かに情報共有をしながら、協力し円滑に事業を進められた。 2. 解説パネルを設置せずに、リーフレットを活用し鑑賞補助とした →ギャラリー内の照度が低かったため、読みにくいとの意見も多かった。 3. 横浜美術館友の会とアーツ前橋メンバーシップ間の割引等サービスの実施 →横浜／前橋ともに、この機会にそれぞれの企画展に足を運んだメンバーが数名いた。 4. 1階の「時をつなぐ」展との内容面での連携 →関連イベントのトークを含め、連携することで、展覧会のメッセージがより深く伝わったようだ。 5. 展示室内での温湿度及び照度管理の徹底

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	横浜美術館コレクション　昭和の肖像　写真でたどる「昭和」の人と歴史

③結果

入場者数(参考数値)
上段:人数(人)
下段:割合(%)
※色付きは有料観覧者

	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	335	65	404	0	180	508	482	0	0	1,029	3,003	58
有料観覧者率　42.8%	11%	2%	13%	0%	6%	17%	16%	0%	0%	34%		

一般指標

指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
入場・参加者数	5,000 人	3,003 人	60.1 %	
展覧会満足度	80 %	85.4 %	5.4 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)

進捗管理
[スケジュール観]

Ⓐ概ね円滑に進んだ
B.遅延気味であった( )
開館後まで積み残しとなった事項(　　)

④成果

[④成果]
一覧表の「目標」に対する結果
・観覧者層のターゲット
・ねらい

観覧者層のターゲット	県内、美術(特に写真)愛好家
成果	展覧会テーマが「昭和」であったため、60代以上世代の来館は見込めるだろうと考え、メインビジュアルをあえて、若い世代、及び親子連れをターゲットに製作した。また、著名作家(例　土門拳、ロバート・キャパなど)の名前を大きく表記しなかったことにより、来場者数が伸び悩んだ。また、連日猛暑が続いたことも、来館者数の低迷と関連していた可能性がある。
ねらい1(転記)	1.新たな観客の獲得
成果	アンケート結果から、春の横掘角次郎展と同様に、市内／県内の比較的年齢が高いお客様が多かった。また、初めて来館した方が50%を占めていることから、新たな客層の獲得という目的は達成されたようだ。ただ、来場者数は3003人と目標入場者数を達成することはできなかった。
ねらい2(転記)	2.美術館機能の高さのアピール
成果	夏期通常の湿度は、50±5%の設定だが、横浜美術館の基準が50±2%であったため、露点温度／乾球温度を調整し、温湿度管理を徹底した。また、照度に関しても、70lux以下を基本とし、作品保護に努めた。また、専門機関と連携し、害虫問題も定期的なモニタリングおよび燻蒸を行っている。
ねらい3(転記)	3収蔵作品への新たな視点の獲得
成果	石内都氏のような収蔵作家を「戦争」「女性」というコンテクストだけでなく、さらに大きな文脈で紹介できるように写真史を俯瞰して、今後の収蔵作品を考えていく必要性を感じることができた。
ねらい4(転記)	4.長期的視点の美術館連携の可能性
成果	今回は、横浜美術館が既に作った展覧会をパッケージとしてアーツ前橋の企画展として開催したが、今回構築された信頼関係を元に、今後の企画展の共同制作など学芸員同士の交流を通じた企画も展開できるだろう。

⑤波及効果

個別評価
※概ね1年経過後に再確認して修正
(記入日を()内に記載)

<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。>

1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入

2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入

3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価　⇒　横浜美術館の学芸員と共に、企画から作品返却までの全ての行程を共に行った。アーツ前橋よりも、多方面で多くの知識と経験を持つ横浜美術館の展覧会運営や作品管理のノウハウを学ぶことができた。また、前橋写真月間と連携し、展覧会を同時期に開催することで、若手写真家の展示を街なかで同時に楽しめる企画となった。

4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒　後日記入

5. 地域資源の活用という点での効果　⇒2016年の横浜美術館での「昭和の肖像」展では、展示されていなかった石内都氏の展示空間を追加することにより、桐生を拠点に活動をする石内氏の初期の作品を地元のファンに発見していただくことができた。また、前橋出身の作家小泉明郎との対談を行うことで、群馬とゆかりがあり世界的に活躍する異なる世代のアーティストを知っていただける機会となった。

6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒横浜美術館の方たちが、他館の展示室で収蔵品見せることで、コレクションを見直し、再発見となる機会となった。また、須田一政《わが東京:青梅》をメインビジュアルとして使用したが、横浜美術館ではまず大きく取り上げられる機会の無かった作品がアーツ前橋の視点により新たな印象を与えるきっかけとなった。モノクロ写真の多いモノトーンな空間になるところを、壁の色を変えることで、効果的な視覚効果を得ることができ、評価された。

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

	事業名	横浜美術館コレクション　昭和の肖像　写真でたどる「昭和」の人と歴史				
自己評価（担当者）	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	課題・改善点	広報素材等は横浜美術館と共にスケジュール通りに進行することができたが、メインビジュアルのデザインをもう少し写真ファンや高齢者層にも訴えかけるストレートなイメージで広報をした方が、集客に繋がった可能性がある。 来場者数が予想よりも少なかったことを考えると、県内の写真ファンへ情報を十分に届けることができなかった可能性が高い。公民館などの団体へのアプローチをしたものの、写真ファンの情報源を分析し、的確に情報を届ける必要性が課題として残った。				
引継ぎ事項 （特記事項）		温湿度管理を徹底して行ったが、横浜美術館の厳格な管理基準を満たすことは、季節によってはアーツ前橋では困難なこともある。今後も、様々な文化施設から作品を借用できるよう、今後も展示室の環境管理をしっかりとしていく必要がある。				
コメント・意見		館長 副館長	はじめて本格的な写真の展覧会を実施できたのは大きな成果だった。また、経験豊富な美術館との連携によって技術や人的交流を得られる結果になったのもよかった。広報の課題は引き続きよく検討していきたい。			
		運営 評議会	・手元で資料を見ながら鑑賞するというのは、悪いアイデアではない。めくらなくても良い様な、見開きを採用するなど、情報量との兼ね合いの中で、手元で見やすい落としどころを探ってほしい。(30/11/26)			

最終更新日：H30.11.23

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの		
会期	平成30年10月5日（金）～平成31年1月14日（月）	開館日数	82 日間
会場（ギャラリー）	アーツ前橋　地下ギャラリー	実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　600 円 割引　400 円	出品点数	141 点
担当者	学芸：若山　満大（忠あゆみ）　事務：堺　大輔		
目的	広瀬川畔への《太陽の鐘》の移設に伴い、岡本太郎を紹介することで中心市街地地域全体の活性化につなげるとともに、新しい切り口で太郎を紹介することにより全国の岡本太郎ファンにアーツ前橋の活動を周知する。		
キーワード	岡本太郎　創造的であること　生活と芸術　戦後日本　戦後美術　メディア		
他団体との連携（共催、協力等）	協力：岡本太郎記念館、川崎市岡本太郎美術館 協賛：太陽の会		
参加・出展作家	岡本　太郎　／　関口光太郎　／　赤瀬川原平　／　横尾忠則 ヤノベケンジ　／　パブロピカソ		
関連イベント	10/7 シンポジウム　山下裕二、ANI、タナカカツキ、春原史寛 11/11記念講演会「岡本太郎と読む今日の芸術」 10/21, 11/17、12/15 学芸員によるギャラリーツアー 12/2 前橋に太陽の鐘が鳴る 12/9ロビーライブvol18 12/3-9おしゃべりアートデイズ 12/1、12/9映画館で太郎と出会う　12/1（2回）誘惑　12/8（1回）宇宙人東京に現わる		

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	出品目録	図録
	1,500 部	展覧会 80,000部 シンポジウム 30,000部		4,000 部	4,000 部	

収入／支出		収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	他
	予算	21,382,000 円	21,382,000 円	100.0%	2,640 円	500,000 円	3,000,000 円	17,882,000 円
	決算見込	23,219,600 円	21,896,342 円	106.0%	958 円	2,337,600 円	3,000,000 円	17,882,000 円
	差額	1,837,600 円	514,342 円	6.0%	－	1,837,600 円		
	予算／決算	108.6%	102.4%	106.0%	36.3%	467.5%		

②内容・活動

［②内容］事業の概要	事業の概要（転記）	『今日の芸術』から読み取れる岡本の思想を検証するとともに、活動の軌跡をさまざまな作品や資料によって紹介する。
［②活動］主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.岡本太郎研究者・春原史寛氏を監修者に迎えて展示を構成。 2. 関係各所と連携し、《太陽の鐘》移設について紹介。 3.文化人を迎え岡本太郎を知るシンポジウムを実施
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・前橋駅前広場横断幕設置（シンポ；9/27-10/7、展覧会：9/27-12/27） ・バスマスク（マイバス8台・10/4-1/14）
	新たな試みの実績	・10/5～10/30まで入館料無料 ・支所、市民サービスセンター管内居住者（市内周辺部）に向け、無料バスを運行（回覧11000枚で募集）　78名（4日間、6便、15地区対象） ・マイバス利用者に観覧券半券提示で当日1回限り運賃無料

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの

③結果

入場者数(参考数値)
上段:人数(人)
下段:割合(%)
※色付きは有料観覧者

	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	11,324	171	3,688	35	2,391	167	740	198	523	4,149	#####	279
有料観覧者率 69.8%	50%	1%	16%	0%	10%	1%	3%	1%	2%	18%		

一般指標

指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
入場・参加者数	8,100 人	22,863 人	282.3 %	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ418人(展覧会と別)
展覧会満足度	80 %	%	-80.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)

進捗管理
[スケジュール観]

Ⓐ概ね円滑に進んだ
B.遅延気味であった

④成果

[④成果]
一覧表の「目標」に対する結果
・観覧者層のターゲット
・ねらい

観覧者層のターゲット	近隣住民、全国の岡本太郎ファン全般
成果	概ねねらい通りの成果を得た。 ・初来館の近隣住民が多く、首都圏を中心に県外からの来館者も多くみられた ・年齢層別に見ると、来館者は40代が最も多く、次いで50代・60代が多かった
ねらい1(転記)	岡本太郎ファンを中心とした新たな観客の獲得
成果	ねらい通りの成果を得た。 ・来館者の61%がアーツ前橋に初めて利用している ・市内・県内在住の来館者が全体の81%であることを考えると、近郊在住者のなかに新たな観客を獲得できた可能性が高い
ねらい2(転記)	2. 官民学が行っている地域活性化へ向けた活動を広く周知する。
成果	概ねねらい通りの成果を得た。 ・本展プロローグとして、広瀬川湖畔に昨年度設置された「太陽の鐘」の紹介セクションを設けた ・地元企業家有志による「太陽の会」を中心とした地域づくりの取り組みを周知することができた ・会期中に太陽の鐘をつくイベントを開催することで100名以上の参加者を集め、地元紙にも取り上げられた。
ねらい3(転記)	3収蔵作品への新たな視点の獲得
成果	本展の骨子『今日の芸術』の背景には、戦後における生活・文化の再構築という社会課題がある。 ・戦後前橋においても近藤嘉男らによる民間美術教育、中央画壇・書壇の支部組織開設は同様の意識を共有している可能性が高い ・職場や土着的コミュニティによる創造行為が、当地の前衛NOMOグループの母胎となったことも併せて考慮すれば「戦後復興期の前橋」という全体性のなかで、収蔵作品を包括的に捉え返すことも可能であると思われる

⑤波及効果

個別評価

※概ね1年経過後に再確認して修正
(記入日を()内に記載)

<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。>

1. 参加作家のその後の活動を評価　⇒後日記入

2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価　⇒後日記入

3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価　⇒岡本太郎というコンテンツを通して、川崎市岡本太郎美術館をはじめ、これまでつながりの無かった諸機関や研究者との連携・交流が生まれた。また太陽の会からの協賛は、企業協賛の実績として今後の事業資金調達の検討に資する事例となった。(2019,3,15)

4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒後日記入

5. 地域資源の活用という点での効果　⇒展覧会、関連イベント、メディアからの取材によって〈太陽の鐘〉という地域資源に対する認知向上につながったと思われる。(2019,3,15)

6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒多くの来場者が来たことでアンケートの回答数が多く、従来よりも客層や広報効果に関する情報(サンプル)が多く得られた。また、美術館をあまり利用しない市民の来館が多かったことで、そうした市民に配慮した展示の設計(解説の難易度、事故防止策など)の必要性について考えさせられた。(2019,3,15)

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

	事業名	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの			
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	①岡本太郎記念館との関係 ・担当者の交代により事業の進行に遅延が生じたことで、借用館に不信感を与えた →担当者・副担当者による計2名体制での業務遂行を原則として、バックアップの仕組みを整える必要がある その上で先方との情報・進捗共有を密にして不信感を極力与えないよう、配慮を徹底する必要がある ②借用作品への汚損行為（事故） ・来館者（6歳前後）が展示中の作品に故意に触れ、汚損するという事案があった →今後は接触の際に破損のリスクが大きい作品（無額装・アクリル無しの絵画、フラジャイルな立体作品など）や他館からの借用作品には、テープ結界やロープ結界などを配置することを原則化する必要がある			
	引継ぎ事項 （特記事項）	テープ結界やロープ結界、サインを使用した事故防止を徹底する			
コメント・意見	館長 副館長	新しい来館者の獲得と市内関係者との連携において大きな成果を残した。担当者の交代に伴うトラブルについては、情報と進捗の共有を館全体で行い、再発防止に努めたい。			
	運営 評議会	・岡本展と太陽の鐘との連携を図るべきではないか。(30/3/28) ・岡本太郎展は、開幕当初は無料にしたが、有料にしてそのまま尻つぼみというふうにならずによかったと思う。 ・波及効果は、事業を行った後、時間がたってから生じるものを記載するケースがあるとのことなので、「該当なし」とするのではなく、「後日記入」がいいのではと思う。 (31/3/20)			

最終更新日：H31.3.16

Ⅱ　平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【地域AP・文化支援】

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。			
細事業別目標【文化支援／普及事業】	引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。			
事業名称	滞在制作事業(海外)	滞在制作事業(群馬県ゆかり)	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成	つまづく石の縁　地域に生まれるアートの現場
時期・日数	(1)2018年6月～8月頃　60日程度 (2)2018年11月～2019年1月頃　60日程度	(1)2018年9月～10月頃　30日程度 (2)2019年2月～3月頃　30日程度	2018年10月12日～11月4日	2018年10月12日～11月4日の金土日 12日間
場所	堅町スタジオほか	堅町スタジオほか	中心市街地各所	中心市街地各所
学芸担当者	五十嵐	五十嵐	五十嵐	五十嵐
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:一般財団法人　自治総合センター
記入日	2018/3/23	2018/3/23	2018/7/15	2018/7/15
〔目的〕 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。 前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。 ターゲット:近隣住民、市内在住者 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	作家の創作活動支援。市内・県内での活躍の場を広げることを目指す。 東京などの人口集積地や、、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成を目指す。 ターゲット:近隣住民、県内在住者 ①幅広い表現者の紹介 ②館外活動により、幅広い層への活動紹介	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成 ターゲット:若者、近隣在住者 ①まちなかイベントの創出 ②芸術文化に関わる人材の増加	・滞在制作は成果が見えにくい特性があることから、事業内容をPRする絶好の機会とする。 ・滞在制作は、滞在中に作品のすべてが完成するものではなく、アーティストの滞在制作後の活動が加味されて評価できることから、その波及効果を測定する。 ・中心市街地の各所を会場とし、回遊性の向上とリピーターの獲得に繋げる。 ターゲット:近隣住民、外国人 ①滞在制作事業の意義が認知され、理解が進む。 ②多文化交流によって街なかで活動する人々同士の、国際的な相互理解が深まる。 ③中心商店街を拠点とする新たなプレーヤーの創出に繋がる ④海外におけるマエバシの認知向上
〔①投入〕成立予算	3,576千円	900千円	2000千円(うち助成900千円)	7350千円
〔②内容・活動〕事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行なう。	過去4年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。	開館5周年にあわせ、滞在制作の拠点である「堅町スタジオ」を拠点にして創作活動を行ったアーティストによって、中心商店街の空き店舗や施設を活用して、展示を行う。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。	年齢の枠を設け、若手の支援も行う。演劇などの美術以外の多様なジャンルの受け入れを行う。	・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・めぶくフェス(アート部門)との役割分担	パスポート制をPRしてリピーターの獲得に繋げる。 8カ国の作家が参加することから、ワールドワイドな発信を行う。 中心商店街からのアプローチで対象者を抽出する。 外国人学校への積極的な広報を行う。
〔数値目標〕―〔結果〕 指標1	イベント回数　2回	結果 3回	イベント回数　2回	結果 2回	支援対象団体数　10組	結果 11組	イベント日数　3回	結果 4回
指標2	参加者数　200名	122名	参加者数　200名	集計中	イベント回数　20回	26回	参加者数　1000名	2306人
指標3					入場者数　1000名	3629名		
【事後記入】 〔③結果、④成果〕 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調書からトピックを転記)	① 地域資源の発掘:作家が興味を持ち、撮影を行った旧店舗あとを、その後の街中を使った展覧会「つまづく石の縁」の会場として使用することができた。 ② 海外での発信:各アーティストのHPでの展示風景、インタビュー情報の掲載があった ③文化交流の機会創出:スン・テウの滞在では、市内のベトナム人コミュニティーとつながった。	① 幅広い表現者の紹介:初めて立体作品を主に制作する作家の招聘となった。 ② 館外活動により、幅広い層への活動紹介:作家の拠点となるスタジオが一階に位置し、広くとられたガラス面を有効利用した制作・展示を行うことで、常時政策を公開しているような状況を作り出せた。	① まちなかイベントの創出: 11団体による16の事業が開催されたため、街中のイベント創出は達成できた ② 芸術文化に関わる人材の増加:これまで3年程度活動実績のある団体を対象としたが、各団体に新しい構成員がいるなど、人材の増加にはつながるものであると考える。	① 滞在制作事業の意義が認知・理解:これまで見えにくかった滞在制作事業を展覧会にすることで、完成した作品を紹介し、成果を伝えることができた。 ②国際的な相互理解・前橋の認知:マップの説明文を日本語学校の学生らに協力してもらい翻訳を行うことや、会場スタッフに留学生らが参加することで、運営自体にも文化交流の場が持たれた。 ③新たなプレーヤーの創出:当日の運営に携わった学生らからは、地域の面白さに気づけたなどの声も多く上がり、若い世代の活動のきっかけとなるものと考える。
特記事項				参加者数:2209名＋オープニング97名

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	滞在制作事業（海外）						
事業1	アーティスト	ゲートゲンス・ヒルシュ	期間	5/16-5/21 調査 7/18-8/30 滞在	日数	50	
事業2	アーティスト	スン・テウ	期間	9/1 -9/8 調査 11/13-12/27 滞在	日数	53	
事業3	アーティスト	-	期間		日数		
担当者	学芸：五十嵐純　事務：佐藤恵司						
目的・目標（総括表）	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。 前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。						
キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘						
他団体との連携（共催、協力等）	コーディネート業務を一部外部団体に委託						
	助成：文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業						
参加作家	ゲートゲンス・ヒルシュ	スン・テウ					
関連イベント・人数	ゲートゲンス・ヒルシュ　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　8月26日						
	スン・テウ　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　12月16日						

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	&Arts14号	&Arts15号				
	3,500 部	3,500 部				

財務指標	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	収入内訳 文化庁	収入内訳 自治総他
予算	-	3,576,000 円	-	-	-	2,730,000 円	-
決算見込	-	3,448,653 円	-	-	-	2,730,000 円	-
差額		-127,347 円	-	-	-		-
予算／決算		96.4%	-	-	-	-	-

②内容・活動

〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。
〔②活動〕主な取組（手段）の結果・メディア等広報実績・新たな試み　関連イベント　助成　など	・広報戦略・新たな試み（転記）	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。
●指標　来館者反応　手ごたえ　アンケート	広報実績〔新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件〕	8/19 上毛新聞「滞在制作でインコ調査　独2アーティスト26日スタジオ公開」 8/27 上毛新聞「独2人組がアート活動　市内滞在の成果披露」
	新たな試みの実績	「文化庁　アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際交流文化促進事業」の助成金を取得した。 2019年度からの滞在制作交流事業に向け、台湾・韓国のレジデンススペースの調査を行った。

③結果

数値目標				
指標1	目標	イベント回数：2回	実績	3回
指標2	目標	参加者数：200名	実績	122名
指標3	目標		実績	
コミット人数（事業・イベント等参加者数・実績）				---

進捗管理［スケジュール観］	
	Ⓐ概ね円滑に進んだ
	B.遅延気味であった（内容：　　）

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作事業(海外)	
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	近隣住民、市内在住者
		成果	ゲートゲンス・ヒルシュらの滞在においてはリサーチの対象となった野鳥の調査から、それらに興味を持つ方々とのつながり、スン・テウの滞在においては市内のベトナム人留学生らといったこれまでの関係者とは異なる層の来場者が訪れる結果となった。
		ねらい1(転記)	①地域資源の発掘
		成果	1組目のアーティスト、ゲートゲンスヒルシュらのリサーチ時、作家が興味を持ち、撮影を行った旧店舗あとを、その後の街中を使った展覧会「つまづく石の縁」の会場として使用することができた。
		ねらい2(転記)	②海外での発信
		成果	各アーティストのHPでの展示風景、インタビュー情報の掲載があった
		ねらい3(転記)	③多文化交流の機会創出
		成果	スン・テウの滞在では、市内のベトナム人コミュニティーとつながり、外国人留学生らの現状把握、また留学生のネットワークとの接点の創出となった。
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	＜1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載＞ *1. 参加作家のその後の活動を評価*⇒スン・テウ:ロンドン、ベルリンにて展示に作家、シンガポール(NTU center for contemporary art Singapore)にて2019年に滞在制作を予定している。(31/3/10) *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒スン・テウ:それまでつながりのなかった市内在住のベトナム人留学生らのネットワークが作家を通じて生まれた。(31/3/10) *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒昨年度までの滞在制作事業の蓄積により、H30年度は滞在制作をおこなったアーティスト10名による中心市街地を会場とした展覧会が開催できた。(20190310) *5. 地域資源の活用という点での効果*⇒アーティストがリサーチの対象とした使われていない物件をその後、展覧会会場として利用。(31/3/10) *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*	
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る	
	課題・改善点	外部コーディネーターの導入により、業務の軽減につながったが、アーティスト・コーディネーター・運営の3者での協議の場や進捗の報告などコミュニケーションの場をより多く作る必要が生まれてきた。 またアーティストの制作スケジュールに合わせパブリックプログラムを予定することで、展覧会などの他事業との日程調整が難しくなるため、今後は事前スケジュール設定を行いたい。	
引継ぎ事項(特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	短期間で招聘作家の意図を理解し、うまくコーディネートすることができるようになってきている。今後は、言語能力やリサーチの支援体制を充実させていきたい。
		運営評議会	・滞在制作事業をここまでやっている美術館はそんなにないと思うので、そこにアーツ前橋の独自性があることも評価している。しかしながら、芸術家を支援することが前橋市民にどう還元されているのか、というところがこれまで薄かったと思う。今後も継続的にやっていただきたい。(31/7/23) ・特になし(31/3/20)

最終更新日:H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名		滞在制作（群馬県ゆかり）					
		事業1	アーティスト 羽山　まり子	期間	9/12 -11/7　滞在	日数	56	
		事業2	アーティスト 尾花　賢一	期間	2/7 -3/30　滞在	日数	32	
		事業3	アーティスト-	期間		日数		
	担当者		学芸：五十嵐純、吉田絵美　事務：佐藤恵司					
	目的・目標（総括表）		多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。 前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。					
	キーワード		創作活動を支援、地域資源の発掘、地域ゆかりの作家の発掘・支援					
	他団体との連携（共催、協力等）		助成：文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業					
	参加作家		羽山　まり子	尾花　賢一				
	関連イベント・人数		羽山　まり子　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　10月27日					
			尾花　賢一　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　3月17日					
①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等		&Arts16号					
			3,000 部					
	財務指標		収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	文化庁 / 自治総他
		予算	-	900,000 円	-	-	-	- / -
		決算見込	-	616,000 円	-	-	-	- / -
		差額		-284,000 円	-	-	-	- / -
		予算／決算		68.4%	-	-	-	- / -
②内容・活動	[②内容]事業の概要		事業の概要（転記）	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行なう。				
	[②活動]主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート		・広報戦略 ・新たな試み（転記）	年齢の枠を設け、若手の支援も行う。演劇などの美術以外の多様なジャンルの受け入れを行う。				
			広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	該当なし				
			新たな試みの実績	公募の広報期間を前年度より長くとることで応募者の増加につながった。				
③結果	数値目標		指標1	目標	イベント回数：2回	実績	2	
			指標2	目標	参加者数：200名	実績	最終集計前につき不明	
			指標3	目標		実績		
			コミット人数（事業・イベント等参加者数・実績）				---	
	進捗管理［スケジュール観］		A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった（内容：　　）					

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作(群馬県ゆかり)	
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	近隣住民、県内在住者
		成果	アーティスト(羽山氏)自身のプロジェクトにより、通常のオープンスタジオの来場者とは異なる対象へのリーチが可能となった。
		ねらい1(転記)	①幅広い表現者の紹介
		成果	これまで群馬県内での発表の機会のなかった作家の紹介につながった。
		ねらい2(転記)	②館外活動により、幅広い層への活動紹介
		成果	作家の拠点となるスタジオが一階に位置し、広くとられたガラス面を有効利用した制作・展示を行うことで、常時制作を公開しているような状況を作り出せた。
		ねらい3(転記)	
		成果	
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価*⇒羽山氏:メキシコでの滞在・展覧会に参加、尾花氏:真鶴まちなーれに参加(31/3/10) *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒羽山氏:滞在期間中には制作に用いるための意図を制作するため、養蚕をおこなう方と共同を行った。またそれらを製糸するなどその後もプロジェクトが継続している。(31/3/10) *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒滞在を2か月程の期間の中で30日以上とすることで、分割した滞在を行うことができ、アーティスト自身が制作期間と日常との往復を繰り返すことで客観的な視点を持ちながら制作を行うことができた。(31/3/10) *5. 地域資源の活用という点での効果*⇒技術・文化の継承のため養蚕を行う若手生産者との協働を行った(31/3/10) *6. 意図せざる(思わぬ)効果*⇒太田市のラジオへの出演(尾花氏)(31/3/10)	
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る	
	課題・改善点	本年度、公募の段階では「年齢制限なし」と「30歳以下」の部を設けたが、30歳以下の該当者がいない結果となった。若手の支援として始めたが、年齢制限をかえるまたはプログラムの見直しが必要である。	
引継ぎ事項(特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	参加作家も制作動機が高く、地元にゆかりのある作家の発掘に成果をあげている。館として若手作家の支援をどのようにおこなっていくべきか検討を加えていきたい。
		運営評議会	・滞在制作事業をここまでやっている美術館はそんなにないと思うので、そこにアーツ前橋の独自性があることも評価している。しかしながら、芸術家を支援することが前橋市民にどう還元されているのか、というところがこれまで薄かったと思う。今後も継続的にやっていただきたい。(31/7/23) ・特になし(31/3/20)

最終更新日:H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	文化支援事業　前橋まちなかアーツ助成		
会期	2018年10月12日～11月4日	開館日数	－
会場（ギャラリー）	市内中心市街地16箇所	実施方式	02自主企画・名義共催方式
観覧料	企画により異なる	助成団体数	11団体
担当者	学芸：五十嵐　純　　事務：堺　大輔		
目的・目標	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成		
キーワード	地域で文化活動を行う市民への支援、回遊性向上		
他団体との連携（共催・協力等）	主催：アートによる文化交流推進実行委員会（事務局、共催：アーツ前橋）		
参加作家(団体)	ちょこ工房 / ya-gins / 芽部 / ハラサワコレクション 上州文化ラボ / Mouthfeel of R / 山賀ざくろ企画 / ギャラリーアートスープなど		
関連イベント	「アート的マインドを育てるws」、「ya-gins vol.30加藤アキラ」、「猫と市の写真　街なか展覧会」		

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	チラシ・フライヤー					
	助成団体で作成					

収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)／(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	収入内訳 自治総他	収入内訳 中心協
予算	－	2,000,000 円	－	－	－	－	－
決算見込	－	1,889,990 円	－	－	－	－	－
差額	－	-110,010 円	－	－	－	－	－
予算／決算	－	94.5%	－	－	－	－	－

②内容・活動

[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）：過去4年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス（アート部門）との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的（3年以上の実績）に活動する団体・個人を支援する。
[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 ニーズ	・広報戦略・新たな試み（転記）： ・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・めぶくフェス（アート部門）との役割分担
	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］：統一の印刷物を作らず、それぞれの団体が印刷物を制作
	新たな試みの実績：長期的な活動と自立した運営へとつながるよう、統一の印刷物を作らず、それぞれの団体が印刷物を制作し、自ら広報を行うよう促した。助成対象期間を1か月ほどとこれまでより長くとることで、助成採択団体同士の交流を生み出すことを試みた。

③結果

入場者数(参考数値)
上段：人数（人）
下段：割合（%）
※色付きは有料観覧者

一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3,629	－

一般指標

指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
支援対象団体数	10 団体	11 団体	110.0 %	
イベント回数	20 回	26 回	130.0 %	
参加者数	1,000 人	3,629 人	362.9 %	

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名	文化支援事業　前橋まちなかアーツ助成	
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ (B)遅延気味であった　(　運営を委託したことによる情報伝達と整理に時間がかかった　)	
④成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	ターゲット:若者、近隣在住者
		成果	それぞれの事業で対象が異なるが、参加者数3629人を数えることができた点では、近隣住民を中心に多くの方に見ていただけたと考えられる。
		ねらい1(転記)	①まちなかイベントの創出
		成果	同時期に開催された「前橋めぶくフェス」のアート部門にてフェスティバルとしてのイベントが行われるため、差別化を図り、市内で文化活動を行う団体へのより長期的な活動支援へと移行した。11団体による16の事業が開催されたため、街中の継続的なイベント創出は達成できたものと考える。
		ねらい2(転記)	②芸術文化に関わる人材の増加
		成果	これまで3年程度活動実績のある団体を対象としたが、各団体に新しい構成員がいるなど、人材の増加にはつながるものであると考える。また、単発的なイベントの実施ではなく、長期的な支援へとシフトしてくことで、より継続的な活動がしやすい環境づくりと単年度で終わらない人材育成につながっていると考える。
		ねらい3(転記)	－
		成果	－
⑤波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正 (記入日を()内に記載)	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入* *4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入* *5. 地域資源の活用という点での効果⇒*旧安田銀行担保倉庫など市内の文化的施設の利用や、中心商店街の様々なスペースを用いて展開された(31/3/16) *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*	
自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　(3)普通　4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　(2)良い　3.普通　4.劣る	
	課題・改善点	すでに助成事業として5年継続して開催しているため、安定した応募団体数と成果が現れていると考えられるが、より自発的な活動を促すための助成の方法を検討する必要がある。また、これまで継続した課題であるイベント実施団体の交流が十分とは言えないため、助成実施以外のプログラムで相互の関心を高める方法を検討したい。	
引継ぎ事項 (特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	中心市街地の芸術活動や各種イベントが変化していくなかで、実施方式を対応させてきたが、今後は発掘育成よりも継続性や連携にシフトさせていきたい。
		運営 評議会	・受付とアーツ前橋との関係性、審査の形、団体数見込みについて質問あり(30/7/23) ・特になし(31/3/20)

更新日:H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名	つまずく石の縁　地域に生まれるアートの現場					
	会期	2018年10月12日～11月4日の金土日			開館日数	12 日間	
	会場（ギャラリー）	市内中心市街地8箇所			実施方式	02自主企画・名義共催方式	
	観覧料	ガイドブック　600 円	（観覧パスポート）		出品点数	27点	
	担当者	学芸：五十嵐　純　　事務：堺　大輔、佐藤　恵司					
	目的・目標	・滞在制作は成果が見えにくい特性があることから、事業内容をPRする絶好の機会とする。 ・滞在制作は、滞在中に作品のすべてが完成するものではなく、アーティストの滞在制作後の活動が加味されて評価できることから、その波及効果を測定する。 ・中心市街地の各所を会場とし、回遊性の向上とリピーターの獲得に繋げる。					
	キーワード	滞在制作事業、地域連携、館外活動、街なか					
	他団体との連携（共催、協力等）	主催：アートによる文化交流推進実行委員会（事務局、共催：アーツ前橋）					
		主催：中心商店街協同組合					
		助成：一財）自治総合センター					
		後援：イスラエル大使館					
	参加作家	アンナ・ヴィット	イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ	梅沢英樹	片山真理		
		木村崇人	ケレン・ベンベニスティ	衣真一郎	ダラ・リーヴス		
		萩原留美子	ヘヴン・ベク				
	関連イベント	10/12　アーティストトーク　本展参加作家					
		10/20、28　ガイドツアー　講師：臼井敬太郎、橋本薫					
		10/28　地域のつまずきと縁					
		11/4　梅沢英樹ライブ　ゲスト：上村洋一					

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	マップ	リーフレット（B5）	リーフレット	パスポートブック	
		1,500 部	40,000 部	2,500 部	5,000 部		1,000 部	
	収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳		
						観覧料	自治総他	その他
	予算	6,500,000 円	6,500,000 円	100.0%	6,500 円	500,000 円	3,612,000 円	2,388,000 円
	決算見込	7,537,449 円	7,537,449 円	100.0%	3,269 円	250,920 円	5,814,896 円	1,471,633 円
	差額	1,037,449 円	1,037,449 円		−3,231 円	249,080 円	#########	−916,367 円
	予算／決算	116.0%	116.0%		50.3%	50%	161%	62%

②内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要（転記）	開館5周年にあわせ、滞在制作の拠点である「竪町スタジオ」を拠点にして創作活動を行ったアーティストによって、中心商店街の空き店舗や施設を活用して、展示を行う。
	〔②活動〕 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	パスポート制をPRしてリピーターの獲得に繋げる。 8カ国の作家が参加することから、ワールドワイドな発信を行う。 中心商店街からのアプローチで対象者を抽出する。 外国人学校への積極的な広報を行う。
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	東京新聞「商店街で生まれ　溶け込むアート　前橋　27作品展示」10月12日 上毛新聞「国内外の作家　前橋中心街をアートに11月4日まで週末展覧会」10月12日 美術手帖Web　掲載 Artit Web 掲載
		新たな試みの実績	1. 商店街の空き店舗など館外の8会場を用いた →商店街と共同し、地域資源を有効活用できた 2. 地域で活動する編集者やデザイナーと協働 →チームを館外の方と構成することで、今後の活動の可能性が広がり、ネットワークが強固なものとなった 3. 学生スタッフの導入 →近隣大学の日本人学生や留学生らに会場アルバイトとして入ってもらうことで、コミュニケーションの誘発と地域に若者が入っていくきっかけとなった。

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	つまずく石の縁　地域に生まれるアートの現場

③結果

入場者数(参考数値)
上段:人数(人)
下段:割合(%)
※色付きは有料観覧者

	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2,306	192
有料観覧者率	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–		

一般指標

指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
イベント日数	3 日	5 日	166.7 %	
参加者数	1,000 人	2,306 人	230.6 %	目標値は当初予定した有料観覧者数 達成値は観覧の延べ人数

進捗管理
[スケジュール観]

Ⓐ概ね円滑に進んだ
B.遅延気味であった( )
開館後まで積み残しとなった事項( )

④成果

[④成果]
期待に対する結果
・観覧者層のターゲット
・ねらい

観覧者層のターゲット	ターゲット:近隣住民、外国人
成果	オープニングを商店街で行うことで、多くの地域住民に活動と事業を伝えることができた。 近隣の語学学校や外国人の方に向けた割引などを実施したが、広報の遅れにより、広く周知ができなかった。またアンケートや人数カウントに外国人向けのものを設けることができなかったことで、反省材料としての数が把握できていない。
ねらい1(転記)	滞在制作事業の意義が認知され、理解が進む。
成果	これまで見えにくかった滞在制作事業を展覧会にすることで、完成した作品を紹介し、成果を伝えることができた。チケットの代わりに、地域を作家のリサーチの視点から掘り下げて紹介する本を作成することで、作品の完成以外の滞在制作の成果や一過性ではない情報の蓄積を作ることができた。
ねらい2(転記)	多文化交流によって街なかで活動する人々同士の、国際的な相互理解が深まり、海外において前橋の認知が広がる
成果	マップの説明文を日本語学校の学生らに協力してもらい翻訳を行うことや、会場スタッフに留学生らが参加することで、運営自体にも文化交流の場が持たれた。また、日本を含めた8か国で活動するアーティストを同時に紹介することで、それぞれの国や地域で前橋で制作を行った作品を展示していることが伝えられ、同時期に滞在していない作家同士の交流を持つことができた。
ねらい3(転記)	中心商店街を拠点とする新たなプレーヤーの創出に繋がる
成果	本の制作を地元の編集者、デザイナーと行い、会場設営や運営を地域で活動するアーティストらと行うことで、コンパクトながら動きやすいチームを構成できた。当日の運営に携わった学生らからは、地域の面白さに気づけたなどの声も多く上がり、若い世代の活動のきっかけとなるものと考える。

⑤波及効果

個別評価

※概ね1年経過後に再確認して修正
(記入日を()内に記載)

<1~6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。>

1. 参加作家のその後の活動を評価
⇒該当なし

2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし

3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒初めての地元商店街との共催開催を実施することができた。滞在制作事業が地域で認知されたことにより、今後の活動が円滑になるきっかけづくりになったと考える。

4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒該当なし

5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒しばらくの間用いられていなかった物件を利用することで、場所の可能性を開くことができた。展覧会後、学生らが同会場を用いて展覧会を行った。

6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒該当なし

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

	事業名	つまずく石の縁　地域に生まれるアートの現場			
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	最終的にスケジュールはおおむね円滑に進んだともいえるが、外部とのチーム構成のため、情報等の共有に時間がかかったことや、業務の割り振りが明確でない部分があったため、最終的には業務量が大幅に増え、細部に手の回らない状態になってしまった。 地域住民や外国人に向けた取り組みを意図していたが、アンケートや入場者カウントなど反省材料となるようなデータの収集が不足してしまった。共催の商店街との情報共有も遅れたため、地域の方々の積極的な関与に関しても反省が残る。 外部のプレーヤーとの協働には大きな意義が見いだせるものとなったが、当事者性を持ってもらう上では、より早い段階で、また頻度を高く情報共有をする必要性があった。			
引継ぎ事項（特記事項）					
コメント・意見	館長 副館長	館外の展示と運営は困難も多く、事故もなく実現できたのは素晴らしかった。なかなか成果が見えづらかった滞在制作事業の魅力を発信することにもつながった。会場設営についてはスケジュール管理や情報共有によって改善できると思うので今後の課題にしてほしい。			
	運営 評議会	・待ち望んでいた企画。五周年記念に留めずに継続的にやっていただきたい(30/7/23) ・ツアーガイドがいるとすごく良い。逆に、一人で巡ると厳しい面もある気がする。 来館者の皆さんは、展示場に入ってくるタイミングがバラバラなので、今この映像はどのあたりなのかな、と分かる表示があると良かった。 (30/11/26)			

更新日:H30.3.28　H30.7.18　H30.11.20

Ⅲ

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【ラーニング】

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。				
細事業別目標【文化支援／普及事業】	引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。				
事業名称	学校連携事業(スクールプログラム)	あーつひろば	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業
時期・日数	(1)アーティスト・イン・スクール 年4回程度 (2)広報物作成、無料招待ウィーク 1冊、3回程度	5月、8月、10月、11月、1月、3月	7月～3月 6回	(1)アリスの広場 12回／1年 (2)南橋団地 12回／1年 (3)えいめい 6回／1年 (4)のぞみの家 6回／1年	(1)メンバーシップ会員 個人:95人(90人) ペア:55人(52人) 賛助:1人(1) 法人:25社(20) 収入:1,000千円(844千円) ()内H28年度実績
場所	市内小中高学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー	ギャラリー、館外(アリスの広場、桃川小学校、南橋団地、えいめい、のぞみの家など)	
学芸担当者	山田	山田	辻	今井	
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助金			・アートによる対話を考える実行委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助金	
最終修正日	2018/11/20	2018/7/13	2018/7/19	2017/12/14	
【目的・目標】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。 ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員 ①児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る ②アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。 ターゲット:アーツ前橋に来館したことの無い親子(隣接施設利用者等) ①初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する ②サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちや作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。 ターゲット:事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人 ①アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り	・アート／美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉／教育現場との連携関係を築く。 ターゲット:美術館から精神的／物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人 ①アート／アーティストを通じて福祉／医療／教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。 ②アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。	(2)サポーター 人数:80人(73人) 継続人数60人(59人) ()内H28年度実績
〔①投入〕 成立予算	1,040千円	900千円	460千円	1,739千円	
〔②内容・活動〕事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール:アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク:児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢遼史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂亥士／山賀ざくろ (4)のぞみの家×廣瀬智央／後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。	
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	実施予定校を前年度に調整し、決定する	キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。	H29年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。	

〔数値目標〕ー〔結果〕												
指標1	実施校数	4校	結果 5校	実施回数	大規模:3回 小規模:3回	結果 5回	自主研修回数	15回	結果 20回	ワークショップ実施回数	36回	結果 21回
指標2	参加者数	学校規模による	233人	参加者数	450人	647人	おしゃべりAD参加者数	200人	174名(岡本太郎展まで)	参加者数	400人	836人
指標3	先生の招待		19人				受講継続数	10人	9名			

【事後記入】 〔③結果、④成果〕 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調書からトピックを転記)	・小学生から中学生まで前橋市内の児童・生徒へプログラムを届けることができた。また、住中プログラムでは学校教員との対話を重視しながら企画を作っていったために学校の理解を得ながら進めることができた。 ・イルワン、ティタ×桃井小学校では、映像や写真、アーティストの言葉によってインドネシアを想像して絵を描くことなどの表現行為へとつながった。	・近隣の小学校全校生徒へチラシを配布したほか、A2ポスターを、元気21のプレイルームの壁に貼ってもらうことで、親子連れへ着実に広報をすることができた。 ・第1回をサポーター企画として彼らのアイディアを募集・実施した。サポートする意識から、自主的にプログラムを行うことに意識変化が見られた。最後の振り返りでは改善点などを見つけて次回へつなげる意見も出された。	・新規5名の申し込みがあった。平日は仕事を持つ会社員が大半で、自己研鑽のために参加した人が多かった。新規者の継続は2名となり、合計9名となった。 ・ナビゲーター有志によるウェブサイトを立ち上げ、スケジュールや管理ができるようになった。 ・「おしゃべりアートデイズ」のシフト決定や当日の運営をナビゲーターが行うことにした。	・現在進行している4つのプロジェクトの対象者の中には、物理的に美術館へアクセスすることの難しい人も多いが、プロジェクトを継続的に行うことにより、対象者の中には、アーツ前橋が彼らのサードスペース的な役割を果たしている人たちもいる。 ・3年間の活動の蓄積として、協働する他団体との信頼関係が構築され、より多くの人に情報を届けることができた。	
特記事項					

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名	学校連携事業(スクールプログラム)					
	(1)アーティストインスクール	時期・日数	10月～3月	会場	5校	参加費	(無)・(　　)円
	(2)教員向け広報物作成	時期・日数	11月	会場	－	参加費	(無)・(　　)円
	(3)無料招待ウィーク	時期・日数	7月、11月、2月	会場	アーツ	参加費	(無)・(　　)円
	担当者	学芸：山田歩　事務：新保正夫、榎本浩子					
	目的・目標（総括表）	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。					
	キーワード	学校との対話、他者への視点、異文化交流					
	他団体との連携（共催、協力等）	アーティストインスクール：桃井小、わかば小、桃川小、東中、六中 NPO法人まえばしプロジェクト					
	参加作家	イルワン、ティタ	住中浩史	中島佑太			
	関連イベント・数	AIS：桃井小					
		AIS：わかば小					
		AIS：桃川小					
		AIS：東中					
		AIS：六中					
		先生のための無料招待ウィーク					

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	H30スクールプログラム	ラーニングドキュメント	AIS報告書				
		2000部	2000部	3000部	－	－		
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)／(B)	一人当たりコスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
	予算	－	989,400 円	－	4,947 円			
	決算見込	－	900,318 円	－	3,864 円			
	差額	－	989,400 円	－	－	－		－
	予算／決算	－	91.0%	－	－	－		－

②内容・活動	[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）	(1)アーティスト・イン・スクール：アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク：児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す
	[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	実施予定校を前年度に調整し、決定する
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・各学校の学校だよりにおいてAISのプロジェクトについて掲載。 ・前橋市立わかば小学校での実施に際して、担当教員がAISについてFMぐんまで取材・放送された。 ・これまで年度が明けてから制作されていた事業報告書について、早めに原稿や写真など動き出すことで年度内に制作。実施した学校の児童・生徒へ届けることができた。
		新たな試みの実績	・前年度より計画を立てることはできなかったものの、教育委員会とNPOとの話し合いで実施する学校を決めることができた。 ・学校連携事業を含め、これまで5年間のラーニングをまとめた冊子を制作し、アーツ前橋での事業の総体や、そのなかでの当該プログラムの立ち位置などを実施学校へわかりやすく伝えることができた。

③結果	数値目標	指標1	目標	AIS実施校数：4校	実績	5校
		指標2	目標	AIS参加者数	実績	233人
		指標3	目標	先生の招待（参加者数）	実績	19人
	進捗管理 [スケジュール観]	(A.)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった（内容：				

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	学校連携事業(スクールプログラム)	
④成果	【④成果】 期待に対する結果 ・参加者層のターゲット ・ねらい	参加者層のターゲット(転記)	(1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員
		成果	・小学生から中学生まで前橋市内の児童・生徒へプログラムを届けることができた。また、住中プログラムでは学校教員との対話を重視しながら企画を作っていったために学校の理解を得ながら進めることができた。
		ねらい1(転記)	児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る
		成果	・住中浩史×東中学校で行った美術部のインスタレーション制作では、アーティストと対話を通じて考えることで、自分たち自身のテーマと素材で多様な表現を積極的に行うことにつながった。
		ねらい2(転記)	アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく
		成果	イルワン、ティタ×桃井小学校では、映像や写真、アーティストの言葉によっインドネシアを想像して絵を描くことなどの表現行為へとつながった。 ・住中浩史のプログラムでは、部活動の生徒たちのみならず、担当した教職員が学校の中でいかに主体的な表現が可能かを考えるきっかけとなった。
		ねらい3(転記)	
⑤波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正 (※記入日を()内に記載)	<1～6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒中島佑太プログラムでは、南橋団地での表現の森のプロジェクトへの参加者の広がりが生まれた。(31/3/16) *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒第59回関東甲信越静地区造形教育研究大会において、中学部門では六中の公開授業でAISとしてかかわるほか、小学校のパネル展示ではわかば小学校の事例が紹介される予定。(31/3/16) 5. *地域資源の活用という点での効果*⇒学校の中の余裕教室に対して、アーティストを交えた学校側との対話を通じた空間を制作することで、学校のなかで主体的な学びとなるほか地域へ開く学校の拠点として今後も活用をしていくことへつながっている。(31/3/16) *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*	

自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3)普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3)普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	(2)良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	(2)良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	プログラムを実施するにあたって、予算内での実施校、実施回数をコントロールをすることで現実的な実施回数へと落とし込む必要がある。また、コーディネーターの役割を明確にし、業務委託できる部分とそれに見合う報酬を用意することが求められる。さらに、3年目のプログラムとして活動や学校のバリエーションを増やしていくことを目指しているが、前橋市のすべての学校への当該プログラムの認知度の向上と、やってみたいと思う先生への直接のコンタクトを可能とするほか、ひいては管理職(校長・教頭)へ向けて実際の学校側のメリットについて理解を得ていかなければいけない。			
引継ぎ事項(特記事項)		これまでの実施してきたプログラムについて、記録映像や記録写真を交えてアーツ前橋内部で展示もしくは発信を行い、前橋市民へプログラムを見てもらう機会を作りたいと考えている。			
コメント・意見		館長 副館長	年間を通した事業なので学校とコーディネーターとの調整が難しいが、とてもいい反応を学校から得ている。どのように学校教育と協働する意義を丁寧に考えていきたい。		
		運営評議会	・今後の美術館は、ラーニングという側面が重要な意味を持ってくると思う。文化芸術基本法では、芸術という本質的価値以外に、国レベルの基本計画などでは社会的価値や経済的価値を訴えている。少なくとも社会的価値は無視してはならない。そのことを意識するためにも、ラーニングを開拓していくことをアーツ前橋の強みとして行ってほしい。(30/11/26) ・特になし(31/3/20)		

最終更新日:H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名		あーつひろば					
	事業1	時期・日数	2018年5月12日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	70
	事業2	時期・日数	2018年8月18日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	102
	事業3	時期・日数	2018年11月10日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	79
	事業4	時期・日数	2018月12月4日～26日	会場	スタジオ、交流スペース	人数	20
	事業5	時期・日数	2019年3月23日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	実施前
	事業6	時期・日数	－	会場	－	人数	－
担当者		学芸：山田歩　事務：高山あずさ、榎本浩子					
目的・目標（総括表）		1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。					
キーワード		アーツ前橋への第一歩、親子連れの来館、サポーターの主体的な場					
他団体との連携（共催、協力等）		サポーター					
参加作家		関口光太郎（11/10）	カナイサワコ（3/23）				

①投入（支出）：③結果（収入）

印刷物等		チラシ（A4）	ポスター				
		各回1,000枚	各回5枚				
財務指標		収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳 参加費	助成金	他
	予算	－	900,000 円	－	#VALUE!	－	－	－
	決算見込	－	685,088 円	－	#VALUE!	－	－	－
	差額	－	−214,912 円	－	#VALUE!	－	－	－
	予算／決算	－	76.1%	－	－	－	－	－

②内容・活動

〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施
〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う
	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・近隣の小学校全校生徒へチラシを配布したほか、A2ポスターを、元気21のプレイルームの壁に貼ってもらうことで、親子連れへ着実に広報をすることができた。 ・当日は元気21との連絡通路にもポスターを掲示し、サポーターにチラシを手配りしてもらったことによって、アーツ前橋に来館する目的がなかった人に対しても気軽に足を運んでもらうことができた。
	新たな試みの実績	・初の試みとしてサポーターによる自主企画の回を設け、サポーターが主体的に企画する契機となった。 ・開催している展覧会の出品作家によるワークショップを行い、子どもたちが実際に展覧会で作品を見る機会へとつながった。 ・外の公開空地に人工芝と扇風機を導入し積極的な活用を模索した結果、通りがかりの人の目に留まり、参加者の増加となった。

③結果

数値目標	指標1	目標	実施回数：大規模：3回、小規模：3回	実績	実施回数：5回
	指標2	目標	参加者数：450人	実績	参加者数：647人
	コミット人数（事業・イベント等参加者数・実績）				271（第5回未カウント）
進捗管理［スケジュール観］	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった（内容：　　）				

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	あーつひろば	
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	ターゲット:アーツ前橋に来館したことの無い親子(隣接施設利用者等)
		成果	・第2回では外の公開空地に人工芝を設置し、隣接する施設からより目に付きやすくする工夫をした結果、100名以上の参加者が訪れる結果となった。また、プレイルームへの広報を厚くすることで、よりターゲットとした層へ的確に情報を届けることができた。
		ねらい1(転記)	①初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する
		成果	・プログラムの一つである「こどもアート探検」では、自分の子どもの素直な感想のほかに、一緒に参加するほかの子どもの言葉を聞くことができるのが良いという理由からリピーターになる保護者ができた。
		ねらい2(転記)	②サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。
		成果	・第1回をサポーター企画として彼らのアイディアを募集・実施した。それまでは文字通りサポートする意識が高かったが、自らが自主的にプログラムを行うことで事前準備の段階から参加者と対話を重ねながら実施へ向けてプログラムを組み立てていくことへつながった。最後の振り返りでは改善点などを見つけて次回へつなげる意見も出された。
		ねらい3(転記)	-
		成果	-
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒前橋市はたらきはぐくむProjectでの取材記事(31/3/16) *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒サポーターの中の一人が、「前橋まちなかアーツ助成」を取得して外部でのイベントを企画実施した。(31/3/16) *4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入* *5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入* *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*	

自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	○3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	○3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	○2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	○3.普通	4.劣る
	課題・改善点	当日はサポーターの補助なくては成り立たないプログラムであるために、サポーターの参加が極端に少ない場合に多くの参加者に丁寧に対応することができない問題点がある。そのために年間スケジュールを正確に設定してサポーターの計画的な参加を呼び込む必要がある。またアーツ前橋への第一歩としての役割からさらに展覧会(展示室)への導入や他の参加型イベントへの誘導など、次の一歩へ繋がる仕掛けをプログラムの中で作っていくことが求められる。			

引継ぎ事項 (特記事項)		年間の定期的な開催へ向けて、アーティストとの調整を行うほかに、サポーター企画のようにアーティスト不在のプログラムを定期的に企画・実施していきたい。 交流スペースの積極的な活用として、人工芝など人目につきやすい工夫をする。
コメント・意見	館長 副館長	サポーターやアーティストの役割について再検討が必要になっている。交流スペースの使い方や、家族連れの誘致といった目的も念頭に今後の展開を考えていきたい。
	運営 評議会	・特になし(31/3/20)

最終更新日:H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項	事業名	アーツナビゲーター研修					
	(1)研修	時期・日数	7/15,8/3-4,9/8,11/16-17,3/1-2　8日間	講師	齊藤佳代	参加者数	14
	(2)おしゃべりアートデイズ	時期・日数	8/20-8/26、12/3-9、3/18-3/24　18日間	講師	ナビゲーター	参加者数	174人（岡本太郎展まで）
		時期・日数		講師数		参加者数	
	担当者	学芸：辻瑞生、山田歩　事務：榎本浩子					
	目的・目標（総括表）	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちや作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。					
	キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有					
	他団体との連携（共催、協力等）						
	該当展覧会	時をつなぐ展	岡本太郎展	近藤嘉男展			

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	チラシ（A4）						
		500 部						
	財務指標	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
	予算	-	460,000 円	-	#REF!	-	-	-
	決算見込	-	416,316 円	-	#REF!	-	-	-
	差額	-	-43,684 円	-	#REF!	-	-	-
	予算／決算	-	90.5%	-	-	-	-	-

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要 〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	事業の概要（転記）	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。
		・広報戦略 ・新たな試み（転記）	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・「おしゃべりアートデイズ」開催ごとに「広報まえばし」に参加者募集を掲載したほか、案内チラシを館内や図書館、県内美術館などへ配布した。 ・友人や知人への口コミや、来場者へ趣旨を説明して参加を呼び掛けた。
		新たな試みの実績	・昨年度まで1時間で3作品を鑑賞していたが、気軽に参加しやすいように30分で2作品を鑑賞するするプログラムに変更した。短縮したことで、終了後に展覧会をもう一度自分のペースで鑑賞していく人が増えた。 ・「おしゃべりアートデイズ」当日の実施を、ナビゲーター（受講者）が中心となって運営できるような仕組み作りを模索。ファシリテーターのシフト作成や当日の実施報告書の記載などを行っている。スケジュール調整や、意見交換用として、有志によるウェブサイトを製作した。

③結果	数値目標	指標1	目標	自主研修回数：15回	実績	実施回数：20回
		指標2	目標	おしゃべりAD参加者数：200人	実績	参加者数：174人（岡本太郎展まで）
		指標3	目標	受講継続者数：10人	実績	参加者数：9人

③結果	進捗管理［スケジュール観］	(A)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった（内容：　　）

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	アーツナビゲーター研修
④成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット（転記）：ターゲット：事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人
		成果：新規5名の申し込みがあった。平日は仕事を持つ会社員が大半で、自己研鑽のために参加した人が多かった。研修以外にガイドプラン作成や自主研修などがあることから受講者の負担は大きいため、事業主旨をよく理解している人が絞り込まれる結果となった。、新規者の継続は2名となり、合計9名となった。
		ねらい1（転記）：①アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り
		成果：・ナビゲーター有志によるウェブサイトを立ち上げ、スケジュールや管理ができるようになった。 ・「おしゃべりアートデイズ」のシフト決定や当日の運営をナビゲーターが行うことにした。 ・新年度の「おしゃべりアートデイズ」の日程を、ナビゲーターと一緒に決めていった。
		ねらい2（転記）：
		成果：
		ねらい3（転記）：－
		成果：－
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒特徴的な活動であるとして、視察を2件受けた。(31/3/12) *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入* *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒アーツナビゲーターの中から、他の美術館やアートスペースなどでも対話型鑑賞の活動する人が出てきた。(31/3/12) *5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入* *6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入*
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る
	課題・改善点	【アーツナビゲーターについて】 ・現在10名が継続している。初回から参加している人は5年目となるが、ファシリテーションをする機会が少なく、継続する動機を維持するのが難しい。 ・鑑賞者の対象を子どもから大人へ変更したために、作品や作家の最小限の情報提供型になったことで研修内容が高度になり、ナビゲーターを継続しない人も出てきた。 【おしゃべりアートデイズ】 ・毎回、鑑賞者が集まりにくい。⇒新年度は年間スケジュールの印刷物を作成し、配布。 ・対話による作品鑑賞は将来性のあるプログラムであるが、ナビゲーターと鑑賞者が集まらず、積極的な活動ができていないのが課題である。
	引継ぎ事項 (特記事項)	・広報戦略　新年度はナビゲーター募集チラシと合わせて、年間の「おしゃべりアートデイズ」の実施日を掲載した印刷物を作成し、活動日や内容をわかりやすく伝える。 ・新たな試み　ナビゲーター研修での個別指導を3年以内の継続者を対象に行い、コーチング以外の研修も充実させる。 (転記)
	コメント・意見	館長 副館長：常設展示室がない現状に合わせた人材育成として成果をあげていると思う。引き続き、研修方法、参加者、スケジュールなどに検討を加えていきたい。
		運営評議会：・特になし(31/3/20)

最終更新日：H31.3.16

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名							
事業名	表現の森継続事業						
事業1	時期・日数	石坂亥士・山賀ざくろ×特別養護老人ホームえいめい 全4回（6/18, 8/6, 10/26, 12/7）	会場	特別養護老人ホームえいめい	人数	280人	
事業2	時期・日数	滝沢達史×アリスの広場 全10回（4/28, 5/16, 6/20, 7/20, 9/3,9/26, 9/27, 11/14, 12/19, 2/20）	会場	アリスの広場、アーツ前橋	人数	102人	
事業3	時期・日数	中島佑太×南橘団地 全4回（7/28, 8/18, 12/16, 2/11）	会場	南橘公民館など	人数	193人	
事業4	時期・日数	廣瀬智央・後藤朋美×のぞみの家 全4回（6/9, 6/25～10/29, 1/12, 3/9）	会場	のぞみの家、アーツ前橋など	人数	156人	
担当者	学芸：今井朋、山田歩　事務：佐藤恵司						
目的・目標（総括表）	・アート／美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉／教育現場との連携関係を築く。						
キーワード	美術館のアウトリーチ、人材育成、福祉や医療や教育の現場、施設や地域との連携						
他団体との連携（共催、協力等）	NPO法人ぐんま若者応援ネット　アリスの広場、社会福祉法人清水の会特別養護老人ホームえいめい、社会福祉法人上毛愛隣社のぞみの家、桃川小学校、南橘町育成会、NPO法人まえばしプロジェクト、群馬大学、群馬県立女子大学、文化庁						
参加作家	石坂亥士、山賀ざくろ、滝沢達史、中島佑太、廣瀬智央、後藤朋美						
関連イベント・人数	・アーティスト・イン・スクール（中島佑太、桃川小学校）：アーツ前橋主催事業						
	・滝沢達史×アリスの広場　ゆったりアウトドアプログラム：アリスの広場主催事業						
	・映画『記憶との対話』上映会＋ディスカッション：群馬県立女子大学主催事業						
	・映画『地蔵とリビドー』上映会＋トーク：やまなみ工房主催事業						

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等							
財務指標	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳		
					参加費	助成金	他
予算	－	1,739,000 円	－	2,080 円	－		－
決算見込	－	970,000 円	－	1,160 円	－		－
差額	－	－769,000 円	－	－920 円	－	－	－
予算／決算	－	55.8%	－	－	－	－	－

②内容・活動

[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）	（1）アリスの広場×滝沢達史 （2）南橘団地×中島佑太 （3）市内高齢者施設×石坂亥士／山賀ざくろ （4）のぞみの家×廣瀬智央／後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。
[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	H29年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。
	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・第47回日本医療福祉設備学会での事業紹介 ・dear Me Festival！（AIT主催）での事業紹介 ・東京都現代美術館文化共生課事業推進に向けたヒアリングでの事業紹介 ・文化庁広報誌ぶんかるに事業記事を掲載 ・九州大学ソーシャルラボ「はじめての社会包摂×文化芸術ハンドブック」での事業紹介
	新たな試みの実績	・群馬大学や県立女子大と連携し、上映会を通じて障害について考える勉強会を開催することで、地域の人たちと本プロジェクトの課題を共有することができた ・連携する施設がアーツ前橋の事業の意義への理解を深めることにより、共同出資でのイベント開催をすることができたまた、地元企業との連携も実現した ・アリスの広場の若者たちに特設サイト用の原稿を依頼し、原稿料を支払う形で、彼らの社会復帰への意識を高めることができた

平成30年度　アーツ前橋事業評価調書（2）

	事業名	表現の森継続事業				
③結果	数値目標	指標1	目標	ワークショップ実施回数　36回	実績	ワークショップ実施回数　21回
		指標2	目標	参加者数　400人	実績	836　人
	進捗管理［スケジュール観］	(A)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった（内容：　　）				
④成果	［④成果］期待に対する結果・観覧者層のターゲット・ねらい	観覧者層のターゲット（転記）	ターゲット：美術館から精神的／物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人			
		成果	現在進行している4つのプロジェクトの対象者の中には、物理的に美術館へアクセスすることの難しい人も多いが、プロジェクトを継続的に行うことにより、対象者の中には、アーツ前橋が彼らのサードスペース的な役割を果たしている人たちもいる。			
		ねらい1（転記）	①アート／アーティストを通じて福祉／医療／教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。			
		成果	3年間の活動の蓄積として、協働する他団体との信頼関係が構築されてきたことにより、地元の育成会や学校との連携を通じて、より多くの人たちへ参加を促すことができた。また、県内での福祉や医療関係者との横の繋がりができることにより、より多くの人に情報を届けることができた。			
		ねらい2（転記）	②アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。			
		成果	南橋団地でのプロジェクトが発展し、団地の子どもたちが通う桃川小学校の生徒たちが学校の授業の中でアーツ前橋を訪れた。			
		ねらい3（転記）				
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を（）内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	＜1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載＞ *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒日本福祉医療設備学会などの美術以外の団体にも関心を持ってもらうことができた（31/3/16） *3. 事業関係者（作家、運営、イベント参加者、地域住民）たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒アリスの広場が来年度5月を持ってスペースの維持が難しくなったが、アーティストの滝沢達史とともに今後の活動拠点についての勉強会を始めている。アーティスト／施設ともに互いの必要性を感じての活動になっている。（31/3/16） *4. 事業の実施に伴う波及効果* ⇒県外からも事業のヒアリング依頼などが来るようになり、地域の美術館の新しい事業として認知され始めている印象を持つ。（31/3/16） *5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入* *6. 意図せざる（思わぬ）効果⇒後日記入*				
自己評価（担当者）	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　(3.普通)　4.劣る				
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る				
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　(2.良い)　3.普通　4.劣る				
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	(1.非常に良い)　2.良い　3.普通　4.劣る				
	課題・改善点	群馬大学のNPOとの連携事業として行っているが、コーディネータなどの人材育成があまり進んでいない。プロジェクトの内容を共有しながら、ともに事業を進められるようなNPOとの連携強化が大きな課題となっている。また、地域の美術館の社会課題へのアプローチに関して、より深く考え議論できる場を作っていきたい。				
引継ぎ事項（特記事項）		特設サイトを通じてアーティストや参加者の声を記録として蓄積してきたが、より専門的な外部の方たちによる声をもう少し積極的に取り入れていきたい。				
コメント・意見		館長 副館長	当館の特徴ともいえる事業になっていて、丁寧に記録作成をおこなう体制が整っている。いっぽうで、それを振り返り内容面の検証を行うことに時間を割く余裕を持たせたい。			
		運営評議会	・社会的な課題としてどう向き合うか。社会情勢の変化で新しい課題が生まれたり、課題だったものが課題でなくなったりしていく。事業の類似例はあるのか。→横浜美術館が年に2回ほど病院へ出向く事業がある。（31/3/20）			

最終更新日：H31.3.16